

～対象商品について～

～箱の重要性～

贈答品として箱がないものは購入対象から外されることが多いです。必ずしも高級な木箱である必要はありませんが、ダンボールのような質素な箱も敬遠されるそうです。中国で陶器などを購入した際には、装飾された箱に入っていることが多く、日本の100円ショップのような店舗でも食器を購入した際には箱があることが殆どのようにです。例として、中国の陶器などを販売している店舗では下のような箱に入れて販売しています。見た目の良さと工芸品の保護を両立しているため最近は一般化してきているとのことです。



*写真参考価格 約500円 (25元) 大きさ : 17・17・17cm

～証書～

中国では偽物が氾濫しているので、制作者（製作所）のプロフィール（証書）が欲しいとのことです。また、贈り物として目上の人などに贈答する際に説明材料としても重宝するようです。作者の受賞歴などが記載されていれば尚良いですが、無い場合は製作所のプロフィールでも良いです。

また、「捺印」されていることも条件で、個人の捺印文化のない中国（社印などは別）では、日本の判子に日本らしさと「証明」されている安心感を感じるため必須です。和紙などに綺麗に印刷されていれば見栄えも良いです。

下記のようなものが理想で、例として挙げました。制作者の来歴が同封・捺印されており、さらに箱にも記載されていると更に印象はいいそうです。



～付属品～

富裕層の目が肥えているのは、日本も中国も同じです。ハイブランドの商品は沢山持っています。それらに匹敵する商品づくりが求められるのです。

お客様の意見もシビアです。工芸品に付属する皿立てやアクセサリーの留め具など、安っぽいものは敬遠されがちです。せっかく工芸品自体は素晴らしい逸品なのに、付属品がそれに見合わないレベルだと購入意欲は無くなってしまいます。

<NGな例>

- ・商品自体は高額なのに対して、付属のスタンドはプラスチック製
- ・アクセサリーの金具部分が安価なメッキ

